

高齢化社会と

向き合う

2025年問題・年金問題

〈2025年問題〉1997年4月/1999年までの間に出生した「団塊の世代」の全ての人々が75歳を迎えることで75歳以上の人口が急増することにより起る問題。

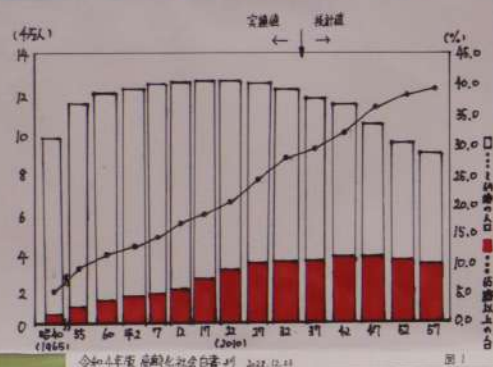
〈年金問題〉少子高齢化による若年世代の負担の増大等により公的年金の運用が劣化している問題。

〈問題点〉高齢化に伴う若者の負担の増大。若年世代の将来も少子化による年金の減少。

図1より高齢者の割合は1965年に6%、2010年には20%と増え、

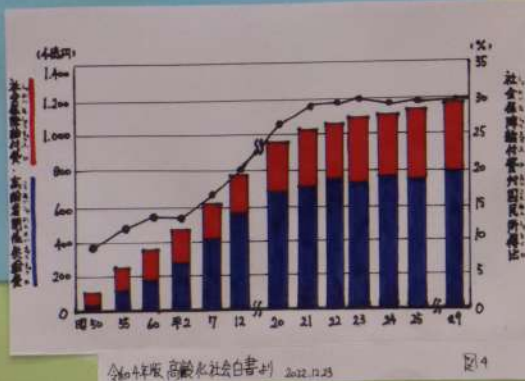
2025年には30%にも上ると予測されている。図2より若年世代の高齢者に対する若者の人口が少なくなっていることが分かる。

これらのことから、これから高齢化は進み、若者の負担が大きくなっていくことが分かる。



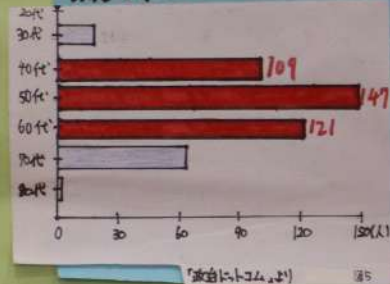
年金については、図2より若年世代の人口が減少し、高齢者の人口が増えることで年金の収支が赤字になることが予想されている。また、高齢者の人口が増えることで年金の支払い額が増えることが予想されている。図3より、年金の支払い額が増えることが予想されている。図4より、年金の支払い額が増えることが予想されている。

年齢	人口(万人)	割合(%)
65歳以上	24.0	20.0
65-69	11.0	9.2
70-74	11.0	9.2
75-79	11.0	9.2
80歳以上	11.0	9.2



国会議員の高齢化

2020年の衆議院議員の年代分布をみてみると、40代から60代の人数がとがぬけていると分かる。逆に、30代以下の人数は他と比べても少なく、衆議院議員は高齢者が多いことが分かる。年齢が高くなると、若い人の意見を反映することが難しくなると考えられる。このようなことが起るのには、若い人の投票率の低下や政治に対して興味を持つ若い人が少ないと考えられる。これからの日本は、もっと子供に対して政治を身近にしていかなければならない。



衆議院議員の年代分布
2020年
2月28日

世界と比べて日本の高齢化

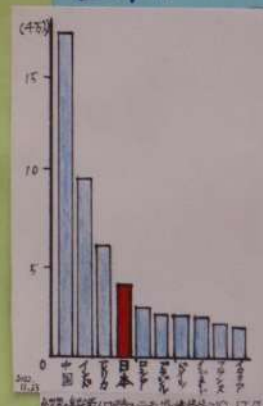
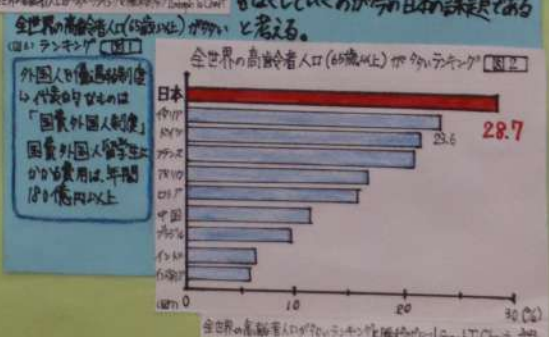


図6より、日本は4位と、かなり上位に食い込んでいることが分かる。しかし、図7をみると日本の高齢者の人口の割合は3割を占めていて、1位となっている。これから考えられる問題は、高齢化による若者の負担の増大。高齢化が進むことによって少子化が進むことが予想されている。その人材を確保するため、外国人を優遇する制度(奨学金制度など)を作ると、日本の若者が貧しくなり、負担が増える。こうした悪循環を打破していくのが今の日本の課題である。



まとめ

高齢化により、国民の所得が社会保障費に使われる。国会議員の高齢化で若者の意見が通らなくなるなど、経済を回す若者の負担が増えている。これからの社会では、まず若者の声が届くよう、選挙権の上限年齢を作ることや、高齢化への関心を高めるための講演会を行うことなど、具体的な政策を行っていくことが大切なのではないかと思う。